

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 23 日現在

機関番号：51303

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26420645

研究課題名(和文)日本の豪雪地帯における近世期の御蔵所の空間構成原理及び地方性に関する研究

研究課題名(英文) Study on Principles of spatial structures and regional characteristics of Okura-syo located in the heavy snowfall in Japan in the Edo period

研究代表者

相模 誓雄 (Sagami, Chikao)

仙台高等専門学校・建築デザイン学科・准教授

研究者番号：20295405

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本の豪雪地帯において近世期に幕府や諸藩が設けた御蔵所に関する史料を比較的多く確認することができた。御蔵所は藩毎や国毎に異なる建物配置の型式があり、地方性を有していた。一方、これらの領域を超える空間構成の共通性(空間構成原理)も見られたのである。御蔵はかつて藩や地域を象徴する施設であった。これらの地域では、御蔵が地域のアイデンティティとなり今に受け継がれていると言えよう。その建築的意義などを明らかにし、社会へ還元、情報発信することができたと考えている。

研究成果の概要(英文)：In the area of heavy snowfall of Japan we were able to confirm a relatively large amount of historical materials of the Okura-syo owned by the feudal government and various domains in the Edo period. Okura-syo had a regional characteristics of type of building arrangement that was different by domain or country. On the other hand, the commonality of the spatial structures (principles of spatial structures) on these areas was also seen. Okura-syo was once a symbol of the domain and the region. In these areas, it can be said that Okura has become the identity of the region and the historical materials of the Okura-syo has been inherited to it. I think that it can be to clarify its architectural significance, to return it to society, and to disseminate information.

研究分野：建築史

キーワード：日本史 建築史・意匠 民俗学 地理学

1. 研究開始当初の背景

(1) これまで近世史研究においてこのような御蔵所に関する表題の視点から見た研究はなく、本研究はその空白部分を埋めるものであった。

(2) これまでに東日本や中日本にあった諸藩や幕府の御蔵所について調査し、その研究成果を発表してきた。特に東北地方や日本海側などの豪雪地帯に御蔵所に関する史料が見られた。

(3) 年貢米徴収及び廻米といった同じ目的によりながらも、御蔵所の型式は、藩によって異なることは、応募者の研究によって明らかになりつつあった。このような近世文化の多様性を、この施設に関する研究から明らかにすることにした。

2. 研究の目的

山陰地方の豪雪地帯(鳥取、兵庫、京都各府県の北部他)に注目し、世界有数の豪雪地帯においてよく表れると考えられる諸藩の御蔵所の空間構成原理及び地方性を明らかにしようとするものであった。

3. 研究の方法

本研究は、対象地域における遺構調査及び史料調査が中心となった。第1、2年度は、年度毎に小括(発表)を行った。まず、藩毎に領内各地にあった御蔵所の所在を確認した。次に、各御蔵所について遺構調査(遺構がある場合)及び史料調査を行った。遺構調査は、実測を行って建物の寸法を記録し、間取り図、断面図等を作製した。なお、図面がある場合はこれを活用した。史料調査は、見取図等の絵図史料や藩庁日誌等の御蔵所の運営や廻米輸送に関わる古文書を写真撮影により収集した。小括は、年度毎に(1年目鳥取藩、2年目出石藩を中心として)型式及びその要因を明らかにした。発表は、論文を作成して日本建築学会論文集などにおいて行った。第3年度(最終)は、総括(発表)を行った。過去の研究成果を用いて、藩政後期の日本の豪雪地帯における諸藩の御蔵所の型式の共通点や相違点を明らかにし、それらの原因についての考察を試みた。発表は、同様に学会論文集などにおいて行った。

4. 研究成果

(1) 鳥取県においては、御蔵所に関する史料を多く確認することができた。鳥取県は因幡国と伯耆国からなり、どちらも鳥取藩の領地であった。鳥取藩御蔵所には、御蔵を敷地境界に寄せて、一筆書き状に配置するといった空間形成の規則性が見られた。計屋の位置に注目すると、蔵々を敷地の端にまとめ、計屋がこれから離して中心に配置されるA型と、蔵々に計屋を含めて全ての建物が敷地の端に配置されるB型に分けられたが、A型が大半を占めた。A型は物資運搬、防火に有利な空間構成であった。一方、B型の<赤崎>の

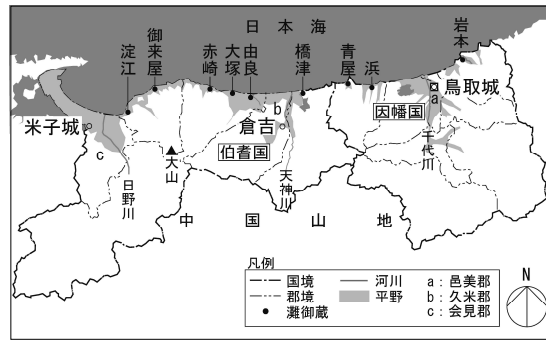


図1 鳥取藩領の中心都市と「灘御蔵」

表1 鳥取藩御蔵所一覧表(藩政後期,但し 青屋を除く)

名称	型式	御蔵		計屋	奉行	目付	番小屋	その他の施設	特記事項
		棟	戸前						
岩本*1	B		11						三方に水辺
浜	A	5	13						
青屋	A	3	8					社	
橋津	A	14	38					刺小屋	
由良	A	4	13					社	
大塚*2	A	4~6	10~14					社	
赤崎	B	5	11				*4		海に面する
御来屋*3	A	5	9					木部屋	
淀江	A	5	10						
米子東	A	4						「荒尾米蔵」	城内
米子西	A	6					*4	道具蔵	城内
倉吉内	-	3					*4		陣屋前
倉吉新	A	2	6					田御蔵, 運賃御蔵	

表注

*1 嘉永5年の戸前数(棟数不明) *2 安政元年~明治7年の棟数、戸前数

*3 7棟の可能性有 *4 敷地外に有

建物配置は、海に面し、細長い敷地形状による制約を受けた。<岩本>はそれはなかったが、複数筋の河川に面し、潮風による砂の堆積を防ぐための河川も開削された。このように、どちらも潮風の影響を受けやすい敷地であったので、計屋は蔵々とともに潮風を防ぎ、防衛線をつくったと考えられた。以上、鳥取藩御蔵所においては、御蔵と計屋との間の物資運搬や防火のため計屋を御蔵群の中ほどに設けることが理想であった。しかし、敷地形状や特殊な環境条件に適應させることで、異なる型式ができた結論付けられた。

また、本研究の主題である御蔵所に関する「全国藩倉シンポジウム」(鳥取県湯梨浜町)において全国の御蔵所について基調講演を行った。また、御蔵の保存や活用に関するパネルディスカッションにパネリストとして参加し、現存する橋津御蔵の建築的意義や活用について意見を述べた。

(2) 兵庫県北部や京都府北部においては、幕府や旗本の代官所の御蔵に関する史料が見られた。三丹地方における幕府や旗本の代

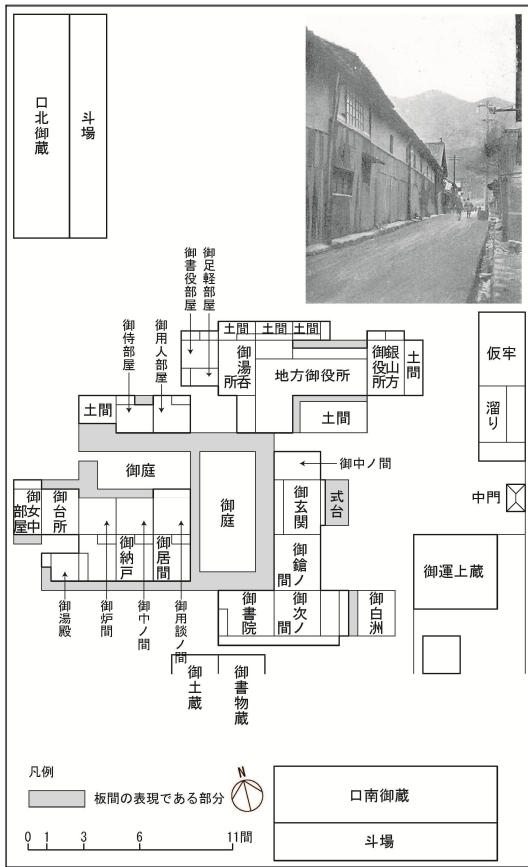


図2 天保15年(1844)以後の生野代官所の本陣と御蔵の比較図写真 戦前の「口南御蔵」の遺構(御蔵の北側)

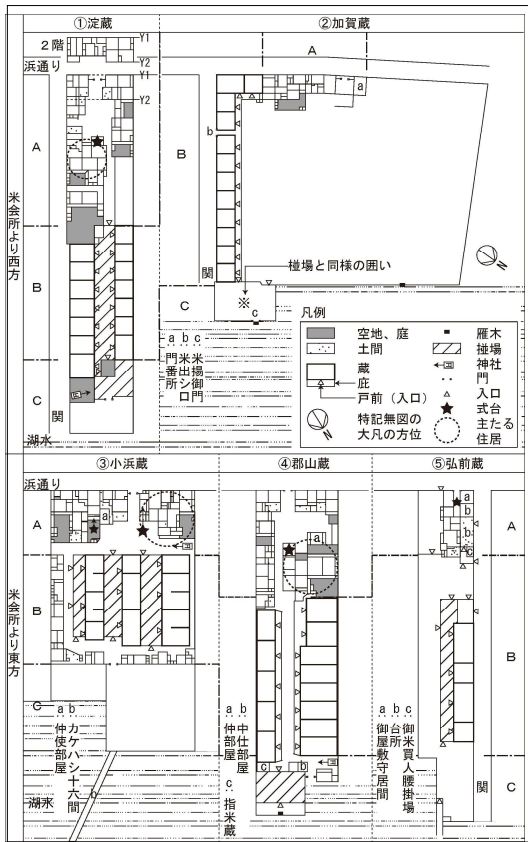


図3 大津蔵屋敷建物配置の比較検討図(型)

官所に設けられた御蔵は、どれも代官所の景観的役割を担ったが、生野銀山町においては、銀山経営に関係した斗場を併設したことによって、他所にはない特徴的な正面を有したと結論付けられた。今後は、全国の幕府代官所の御蔵を調査し、御蔵が代官所の景観形成に果たした役割についてさらに検討することとした。

(3) 豪雪地帯の諸藩などが大津に設けた蔵屋敷に関する史料が見られた。米の売却に用いられる蔵屋敷は、年貢米徴収に用いられる御蔵所とは空間構成の異なるものであった。それらの空間構成原理を明らかにした。また、加賀藩領の加賀国における御蔵所の建物配置の類型を明らかにし、その特徴について検討した。

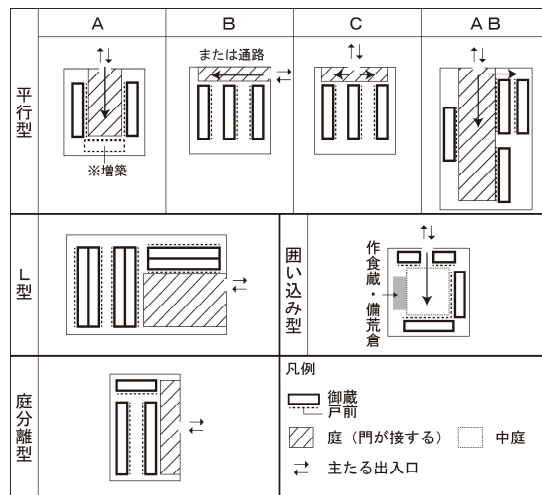


図4 加賀藩御蔵所の全型式

(4) 以上の成果と過去の研究の成果から、日本の豪雪地帯における御蔵所の空間構成原理及び地方性について検討し、いつかの知見を得た。

第一に、加賀国、能登国、越中国の三国からなる加賀藩領の御蔵所には増築がよく見られたが、3種類の増築手法が考えられた(図5)。次の2つの空間構成原理が知られた。1つは、型式成立までは、型式を形成するための増築手法により、成立後はそれとは異なる手法により発展すること(平行型、庭分離型)。もう1つは、一貫して同じ増築手法(case1とcase2)により形成、発展することであった(L型や囲い込み型)。しかし、後者の型式のうち、L型はcase3も併せて御蔵を大規模化し、囲い込み型は成立以後は敷地を拡張しての付け足しに止まった。このように、これらは同じ空間構成原理によりながらその空間構成は大きく異なったのである。また、加賀藩御蔵所は、どれも建物規模の拡大が図られていた。このため増築が行われたが、越中国や加賀国では建物範囲を拡大する外向きの増築であったのに対して、能登国では既存建物の影響範囲内に増築する内向きの増築(図5)が顕著であった。このような

加賀藩領内における地方性が見られる。その原因については、今後防衛の観点からさらに検討を進めることとした。また、敷地条件が増築に及ぼす影響についての観点からもさらに詳しく検討していきたい。

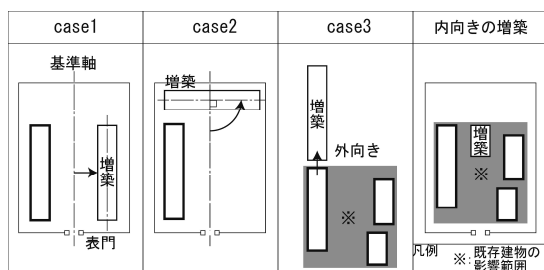


図5 加賀藩御蔵所の増築手法

第二に、蔵の戸前に差し掛かる庇は、蔵の内部への雨や雪の降り込みを防ぐとともに、米俵の置き場としても用いられた、吹き放しの土庇である庇は、A 長庇、B 戸前だけに庇が掛かる、C 庇がないといった3つのタイプに分けられた(図6)。なお、Cタイプには、御蔵の戸前に検査所が接続し、庇の役割を果たす事例を含む(C-2)。長庇は、現在の石川県加賀地方から鳥取県にかけての日本海沿いの地域に多く見られる。日本の豪雪地帯の御蔵に見られる庇の形式とその地域的分布について発表を行った。さらに御蔵の庇や検査所に注目し、御蔵所の空間構成原理と地方性に関するこれまでの研究を総括する論文を作成した。

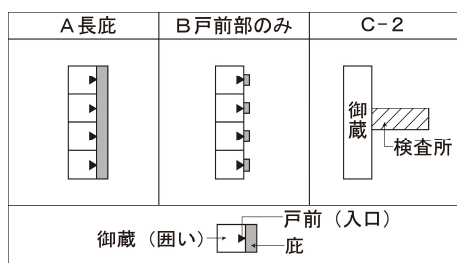


図6 御蔵に見られる庇の種類

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

相模誓雄、近世期の加賀藩御蔵所の空間構成原理と地方性 - 増築手法の分析による -、日本建築学会計画系論文集、査読有、82 巻 732号、2017、507-517

DOI : <http://doi.org/10.3130/aija.82.507>

相模誓雄、近世期の生野銀山町に設けられた幕府代官所の御蔵に関する研究、日本建築学会計画系論文集、査読有、81 巻 729号、2016、2487-2495

DOI : <http://doi.org/10.3130/aija.81.2487>

相模誓雄、近世期の天津蔵屋敷の空間構成に関する研究、日本建築学会計画系論文集、

査読有、81巻728号、2016、2269-2279

DOI : <http://doi.org/10.3130/aija.81.2269>

相模誓雄、近世期の鳥取藩御蔵所の空間構成に関する研究、日本建築学会計画系論文集、査読有、81 巻 724号、2016、1373-1383

DOI : <http://doi.org/10.3130/aija.81.1373>

相模誓雄、近世期の加賀国における加賀藩御蔵所の空間構成に関する研究、日本建築学会計画系論文集、査読有、79 巻 705号、2014、2517-2526

[学会発表](計2件)

相模誓雄、橋津藩倉の建築的意義と活用に関する一考察、日本民俗建築学会第43回大会研究発表会、2016年5月28日、米子工業高等専門学校図書館アカデミックシアター(鳥取県)

相模誓雄、鳥取藩以外(全国)の御蔵所について、全国藩倉シンポジウム招待講演、2015年11月8日、橋津地区公民館(鳥取県)

[図書](計1件)

相模誓雄 他、橋津藩倉を活用した地域活性化事業実行委員会、全国藩倉シンポジウム・予稿集：鳥取藩以外(全国)の御蔵所について、2015、4

6. 研究組織

(1)研究代表者

相模 誓雄(Sagami Chikao)

仙台高等専門学校・建築デザイン学科・准教授

研究者番号：20295405